



アーチェリー

期 間 ◇ 10月5日－10月7日
会 場 ◇ 阿仁吉田特設アーチェリー競技場

■70 m先の直径6.1 cmの的に矢が当たる！？

アーチェリーは元タイギリスで誕生して以来、主にアメリカで発展し、現在ではオリンピックの正式種目として世界中の人々に愛されているスポーツ。2004年のアテネオリンピックにおける山本選手の活躍は記憶に新しいところでしょう。競技そのものは単純明快で、的に向かって矢を放ち、矢の刺さった箇所の点数を競います。

国体では、ターゲット（標的）という競技規則で行なわれ、70 m先の直径122 cmの的に向かって矢を射ります。

的には10段階に点数が分けられていて、真中の10点の直径は6.1 cm。肉眼では見えないほどの大きさです。個人戦は1人72射の合計点で競われ、団体戦は3人で1チームを編成し、27射の合計点を競うトーナメント方式で競われます。

■成年男女及び少年男女に計76チームが参加

出場するのは、成年男女が9ブロックから各23チーム、少年男女が各13チーム。これに秋田県から1チームづつが加わり、計76チームが各種目で勝敗を競います。

■集中力が決め手となるアーチェリー

アーチェリーは自然が相手となるので、風を読んで風を味方に精神の集中度をぎりぎりまで高める緊張感が見所となります。

集中力を高めるために会場では大きな歓声を上げたりできませんが、大勢の観客は選手の励みになります。期間中は、アーチェリー会場にもぜひ多くの市民の皆さんに足を運んでいただくようお願いいたします。



県内でも有数の施設・阿仁吉田特設アーチェリー会場の位置は、国道105号線・阿仁かざはり苑入り口を入る。



山岳（クライミング）

期 間 ◇ 9月30日－10月2日
会 場 ◇ 森吉スポーツ公園

■規定時間内に到達距離を競うクライミング

クライミング競技は、約15 mの人工の壁を「ホールド」という人工の手がかり、足がかりを利用してよじ登り、限られた時間内（予選6分、決勝7分）で到達高度を競います。

競技中は、ザイル（命綱）で選手を確保しているため落下しても安全ですが、観客は「落ちる・落ちる」とハラハラ・ドキドキ。どのルートに登るかの判断力が勝敗のカギとなるスリリングな競技です。

■壮観！高さ15 mのクライミングボード

この人工の登はん壁「クライミングボード」は、森吉スポーツ公園（森吉支所南側）に5月頃設置される予定です。

競技は、軽快な音楽を背景に、DJ（ディスクジョッキー）による紹介で選手が登場する独特のムードの中で行われます。

ビル3階ほどに相当する逆勾配のボードを素手で登る迫力には圧倒されます。



命綱を付けてはいるものの、高くなるほど勾配が厳しくなる登はん壁に登る姿にはらはらするクライミング



山岳（縦走）

期 間 ◇ 9月30日－10月1日
会 場 ◇ 森吉山特設コース

■「縦走」「クライミング」の2種目で競う山岳競技

国体で行われる山岳競技は、決められた地点から一定の重量の荷物を背負い、いかに早くゴールするかを競う「縦走競技」と人工の岩壁を決められた時間内に自分の手足のみで登り、その到達高度を競う「クライミング競技」の2種目の合計点で競われます。

参加するのは、成年男子が47チーム。少年男子が16チーム。成年女子と少年女子がそれぞれ15チーム。競技は3人が1チームとなり、縦走とクライミングに2人、うち1人が両方に出場します。

■重りを背負って山を走る過酷な競技「縦走」

「登山」のイメージとは異なり、いわば「重りを背負って山を走り、指定時間内にゴールを目指すマラソン」。成年男子で17 kg、成年女子と少年男子で12 kg、少年女子で8 kgの重りを背負い（何を入れてもよいが、スタートとゴールで重量を計測します）、100分の指定時間内を上限に延長7.2 km、高度差601 mのコースでタイムを競います。

スタート地点は妖精の森駐車場付近。ゴールは森吉スキー場リフト山頂駅舎付近に設定されています。



森吉山特設コースが会場となる山岳縦走競技



フェンシング

期 間 ◇ 10月5日－10月9日
会 場 ◇ 合川体育館

■全国から101チームが参加

フェンシングは、剣を持った選手が1対1で時間内に互いを攻撃し、相手を突いた数を競う競技。剣の違いによって「フルーレ」「エペ」「サーブル」の3つの種目に分かれています。

国体では、成年男子3種目の団体戦（1チーム3人編制）と成年女子及び少年男女フルーレの団体戦が実施されます。

出場チーム数は、成年男子が47チーム。成年女子と少年男女は、それぞれ全国9ブロックからの17チームに、秋田県を加えた18チーム。合計で、101チームが参加します。

■各種目の特徴

【フルーレ】・・・成年男女・少年男女

フェンシングではもっとも基本的な種目。攻撃をするためにアクションを起こした選手が「攻撃権」を取り、有効面を突いたら得点になります。この「攻撃権」を取ったり、取り戻したりして試合が進みます。

【エペ】・・・成年男子のみ

「攻撃権」はなく、先に相手を突いた方に得点が入るスピード感のある種目。素早い突きが要求されるため、張り詰めた緊迫感が感じられるところが見どころです。

【サーブル】・・・成年男子のみ

馬上で行う軍刀術が、この種目の起源。フルーレと同じように「攻撃権」があります。他の2種目とは異なり、「突き」よりも、「斬り」が主体となります。



101チームが参加するフェンシング競技